プレスリリース（資料配付）

平成３０年１０月

国立研究開発法人森林研究・整備機構
森林総合研究所四国支所

森林総合研究所四国支所　公開講演会

－「皆伐」をめぐる四国の山の現状と課題－

・国産材に対する需要が増加し、増産が求められている
・林業の低コスト化に、伐木・集材の効率がよい皆伐は有効な手段である。
・一方で、皆伐には不十分な再造林、シカによる食害など課題も多い。
・今後、皆伐の増加が予想される四国の山の将来について考える。

概要

国産材に対する需要が増加し、増産が求められています。皆伐は伐木、集材の作業効率がよい点で林業の低コスト化が可能であり、この要望に応えられる有効な作業方法です。一方、近年、様々な理由により皆伐跡地に必ずしも再造林が行われず、また、たとえ植栽してもシカによる食害で成林できない場所も増えており、将来の森林資源の減少や放置された皆伐跡地の増加による山地の荒廃など、国土保全上の問題も懸念されます。

将来の森林資源を確保し、国土を保全するためには皆伐地の確実な再造林が必要です。そこで、この講演会では、皆伐について現在生じている問題、課題について整理し、今後、皆伐が増えるであろう四国の山の将来について考えてみます。

◎詳細は別紙チラシをご覧下さい。

問い合わせ

国立研究開発法人森林研究・整備機構　森林総合研究所四国支所　支所長　小林　功
＜広報担当部署＞　森林総合研究所四国支所　地域連携推進室
Tel：088-844-1121（代）　Fax：088-844-1130／Email：koho-ffpri-skk@gp.affrc.go.jp

この資料は、高知県政記者クラブへ配布しています。